

2013 年 3 月 5 日

島根大学学長 殿

研究者氏名 (代表者)

張 玲

## 2012 年度研究奨励助成 研究報告書

研究分野	(該当する分野を○で囲んでください) <input checked="" type="radio"/> (1) 寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究 <input type="radio"/> (2) 生態系・環境の保護と再生に関する調査研究 <input type="radio"/> (3) 農業経済と社会発展の比較に関する調査研究		
研究者の連絡方法	連絡先を記載してください		
研究期間	2012 年 3 月 ~ 2013 年 3 月		
研究成果概要	<p><b>寧夏南部山区における基礎教育の均衡発展に関する研究</b>  <b>——海原県を例にして</b></p> <p>本研究は、寧夏海原県における農村教師の情報化の教学レベルを高めることによって、農村教育の質を改善し、山区教育の持続的な発展を促進することが目的である。研究結果は以下の通りである。</p> <p>(1) 回族人口が 85% を超える海原県は、国連によって人の居住に不適切な場所と判定されている。中国の国家級貧困県なので、教育の情報化レベルと教師の教学レベルが低く、両親が出稼ぎに行っているため、留守番児童が多く、家庭教育がほとんどやられていない状態である。本研究では、調査先として 7 校を選定し、一年間教師への研修・指導を行い一定の成果が得られた。</p> <p>(2) 教師の教学レベルが高められた。例えば、教師の教学設計のレベル、授業中の教学能力、教学研究能力と情報技術教学の応用能力が高められたことなどである。</p> <p>(3) 調査実験班の生徒に顕著な変化があった。例えば、生徒の国語能力の向上、言葉の表現と交際能力の増強、思考能力の向上などである。上述の結論は、国語試験や作文、言語による実際の交流と授業中の表現を分析して得たものである。</p> <p>(4) 研究メンバーも一定の研究成果を収めた。本研究に参加した 3 名の大学院生は調査研究と問題の分析能力を養い、総合教養を高めることができた。そして、彼らはデータを収集して修士論文を完成させ、修士論文の口頭試問に合格した。そのうちに 2 名の修士論文は、寧夏回族自治区の優秀修士論文賞に入賞した。3 名の修士論文ともに専門の定期刊行誌に掲載された。</p>		
経費の内訳	区分	金額 (単価: 千円)	備考
	1. 雑費	3	資料印刷費
	2. 消耗品費	0	
	3. 通信運搬費	0	
	4. 図書費	71	図書購入
	5. 旅費・滞在費	58	調査交通費、宿泊費
	6. 謝金等	68	技術指導員等謝金
	合計	200	